

科目ナンバリング		G-LAS15 80012 LJ74									
授業科目名 <英訳>		デザイン方法論 Design Methodology				担当者所属 職名・氏名		工学研究科 教授 三浦 研 工学研究科 教授 神吉 紀世子 工学研究科 教授 平田 晃久 防災研究所 教授 牧 紀男 京都大学 未定			
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	複合領域系			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・ 後期集中		曜時限	集中 土曜日（後期開始時 に掲示等を通じて調 整する。PandA上で の連絡調整を見てく ださい。）		配当学年	大学院生	対象学生	全学向		
(工学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)											
[授業の概要・目的]											
21世紀を迎えてデザインが問い直されている。単に人工物を作ればよかった時代は終わり、今日のデザインはプロセスを含めて、豊かな経験やつながりを創り出す行為にまで広がっている。本講では、デザイン方法を概観したうえで、防災デザイン、医療福祉デザイン、建築都市デザイン、地域デザインの観点からデザイン方法論について解説する。防災デザインでは、津波・河川氾濫の浸水エリアを示したハザードマップ、避難のためのピクトグラム、警報の色レベル、災害に強い都市デザイン等々、社会の安全を守るための様々なデザインが存在する。アフォーダンス、リスクコミュニケーションという観点から防災に関わるデザインのあり方について解説する。医療福祉デザインは、医療保険や介護保険など、国の制度の影響を大きく受ける。制度設計の影響を受けて、いかに建築環境が変遷したか、振り返る。また、ランドスケープなど、生命、身体、健康に関連した建築、環境デザインの方法について解説する。建築都市デザインでは、建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手掛けられているデザインの実例をとりあげる。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれ、デザインの営為に関わる諸現象の関係性・持続性・真実性を総合的に捉える理論と営為の履歴と現在について学ぶ。地域・居住のデザインでは、「居住の持続」が困難な局面にある地域に出会ったときの支援のデザインを論じる。居住とは極めて総合的かつ普遍的であり、かつ、個々人の尊厳に最も深く関わる対象である。誇り高く生きる人間と地域社会、地域環境のあり方について、部分解にとどまらないデザインの思想を考える。講義全体を通じて、建築、地域、都市環境に関連した多様なデザイン方法論を理解し、実践するための基礎的な素養を身に付ける。											
[到達目標]											
人間、建築、地域、都市のデザイン方法を理解し、実践するための基礎的な素養を身につける。											
[授業計画と内容]											
デザイン方法論の進め方（1回）講義の予定、デザイン方法論に関わる基礎的理論の概説・イントロダクション 防災デザイン（3回）命を守るためのデザインの方法・リスク評価の方法と限界・リスクコミュニケーション・ハザードマップ、警報のための色コード 医療福祉デザイン（3回）介護施設の環境の変遷と人権・生命、身体、健康に関連した建築環境デザイン、医療施設の建築、ランドスケープの考え方。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれる。 建築都市デザイン（3回）建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手											
-----デザイン方法論(2)へ続く↓↓↓-----											

デザイン方法論(2)

掛けられているデザインの実例をとりあげる。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれる。

地域・居住のデザイン（３回） つよい摩擦を内在する地域社会へのアプローチ・Dialogue-Based Approach：公害被害地域（水俣、西淀川）に学ぶ・参画と個人：Ladder of participation、子どもの参画（R.Hart）、「保存か開発か」不明瞭な論点構造を見抜く 地域に内在する価値の体系化・DynamicAuthenticity：地域らしさを動的構造として読む・模擬考察：現在進行中の地域課題から地域のデザインの進化をしかける：アートから建築作品・マスタープランまで

ディスカッション（２回）それぞれのデザイン領域を統合した議論を行い、デザイン方法論の新たな議論構築を考察する。教員全員で担当する。レポートや各回の議論に対するフィードバックも含める。

[履修要件]

特に定めない。本講義は原則、桂キャンパスで実施するが、具体的な予定は別途通知する。

[成績評価の方法・観点]

レポート課題として、４人の教員の話を通じて「デザイン方法論」を論じる（60％）、４人の教員うちの１人の話に注目した論考（40％）の２つを出題する。

[教科書]

授業は配付プリント、およびプロジェクターによるスライドを用いて行う。（PandA上で共有する）

[参考書等]

（参考書）

参考書は授業中にその都度紹介し、文献リストも追って配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]